



2期生 (経済学部/経済学科)

# 三谷 玲布

## 高知が生んだ太平洋のカツオ



### 01 生まれと育ち

#### 即行動

高知県伝統的特産品を作る三谷家に生まれる。幼少期から自らが習い事をしたいたい言い始め、4歳からピアノ・毛筆を習い、小学校では生け花……。『やってみたいと思ったら即行動』という考え方はここからできたのである。中学受験を経て、憧れでもある中高一貫の女子校に入学し吹奏楽部に6年間の青春を注ぐ。

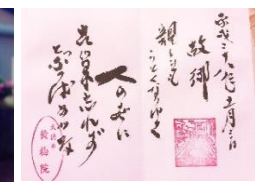


部活動は上下関係が厳しかったが、先輩と対立した。後輩であるのに切れ味のある意見を発し、顧問に心配されるほどの生意気さがあつた。この部活動の経験からやると決めると、ブレキをかけず突っ走るようになった。

### 02 大学生になってからのこと

#### 悔いは残さず

キャッチコピーの通り、全力で何事にも向き合ってきた。寝る時間を削ってまで勉強・アルバイト・遊びどれにおいても24時間密に過ごしている。なぜそこまでするのか。それは、毎日後悔したくないからである。そのため、いつも寝る前に『今日一日を振り返る』ことを日課としている。もちろん、その日はその日のこと忘れてしま



まつこともできる。しかし、次の日をより楽しく過ごすために前日を振り返ることを私は心がけている。だからこそ人一倍毎日を楽しんでいることには自信がある。そのおかげか友人からは『三谷は大学生活一番エンジョイしてるよな』とよく言われる。もしも明日死んだとしても悔いのない行動をしよう。だからこそキャッチコピーのカツオ同様、止まることなく動き続けているのである。

### 03 努力人間への道

#### これからのこと

今後は、人一倍努力を積み重ねていきたい。今までは、なにか困難なことがあつたとしてもノリで強行突破しようとはばかり行動してきた。その考えを捨て、



んでいた。

方法、を多く持つための努力をする。今まで人と関わることの重きを置いてきた私は人の相談に乗ることが多かった。しかし、相手の話をうまく聞き出すことはできるが、そこにプラスアルファとしての知識がないため、その人の長所を最大限に活かす方法が分からない。

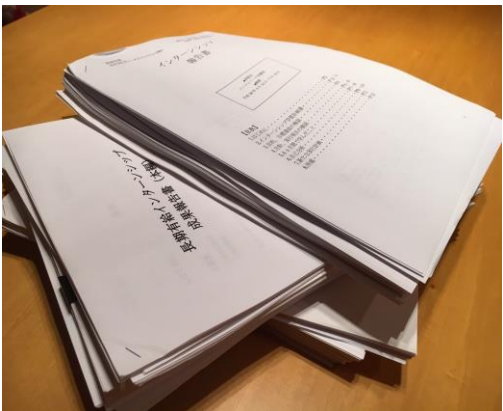
今後は奇跡的に成功するホームランではなく、コツコツ努力して実力をつけていきたい。もしも努力している中で失敗してしまつたとしても、それは自分の課題に向き合っている証拠だからである。



## 04

### 長期有給インターンシップ

長期有給インターンシップに参加して最も自分の変化を感じたことは、成果に対する考え方である。インターンシップ後、『成果〇〇チャレンジした数』に変わった。このように変化したのは大きなキッカケがあつた。インターンシップ前、なにか大きなことを成し遂げることが成果だと思いがなければせっかく参加した意味がないと、成功ばかりを求めてしまつていた。大きなことをすれば、社員の方に認めてもらえる。その一心で日々の業務に取り組



しかし、ある日の出来事、社員さんの些細な一言で大きな転機を迎えた。『三谷さんには、積極性が足りない』この一言までは成功ばかりを求めると同時に、自分はいつか一発逆転ホームランしてやるとばかり思い込んでいた。ふと行動を振り返つた時、企画をするにしても報連相をせず、いつも完成型で評価してもらおうとしていたことに気づいた。そんなに社会は甘い世界ではなかつた。悔しい。

## 05

### 大事にしたいこと

#### まずは食ってみる

嫌いなものを嫌いと言いつけることは簡単である。好きなものを続けることも簡単である。ならば、あえて嫌いなことに興味を持ち、知ることで、好きなことばかりしている人よりも多くの経験をすることができる。だからこそ、私は嫌いなことに対しても好きになれる方法を見つければ良いと考えている。

この考えは両親の教育方針が基である。いつも家族は「やってみたら?」と言つて後押ししてくれる。この言葉は、「好きなことだからこそやってみたら」と言っているのではないと思う。自由に何事もやらせてくれるからこそ、

『その中で何か自分自身で見つけてこい』という両親からのメッセージではないだろうか。自分でやりたいことを見つけて両親のように輝けたらと思う。だからこそ、この考え方は一生自分の軸として持つておこうと思う。



8歳

#### 限界への挑戦

いつまでも家族に頼るのではなく、まずは、自分の限界まで自分で取り組むようになった。

17歳

#### 仲間との対立

中学高校時代、部活動で同期の20人と対立。辛いという壁から逃げる正面から向き合うことで、真の友人ができる。

20歳

#### 毎日を楽しむ

20歳を節目に、『自分が死んだときに葬式で友人にどう思っていてほしいか』。みんなに笑っていてほしいため、毎日を誰よりも楽しんで笑つていようと思えた。

#### プロフィール

三谷玲布。1995年8月16日生まれ。高知県私立土佐女子中学高等学校卒業。中学高校時代は吹奏楽部に所属。大学ではフットサルサークル・京都散策サークルに所属。休日は主に寺社仏閣巡り・居酒屋巡りをしている。「まずはビール」これは私の決まり文句でもある。共に杯を交わすことで、腹を割ってなんでも話すことができると考えているため、週4回も行ってしまつていることが悩みでもある。

#### 先輩・後輩からのメッセージ

##### 向坂なつみ (1期生)

友達が多くて、どんなに忙しくても遊ぶ事を忘れないタイプ。これは、彼女が隠し持つ、繊細な器用さ故であろう。誰に対しても同じ接し方ができることも彼女の強みだと思う。

##### 岩城賢太郎 (3期生)

プレゼン発表当日の朝。最終まで確認して下さる後輩思いの優しい方。その裏に秘めた熱い気持ちは先輩譲りのものであり、人の良いところも悪いところも見抜ける頼もしい人です。